

祖父は私が5歳の時に他界しました。最後の1年は闘病生活だったので、実際のかかわりは4歳の時までです。しかし、私には祖父との大きな思い出が二つあります。

一つは、祖父の勉強姿。戦後、満州から命からがら日本にたどり着く行程の中で、娘を4歳で亡くしてしまつた祖父は、「いつか骨を拾いに行く。間違いなく見つかるためには中国語を勉強せねば」と仕事以外の時間は一生懸命勉強していました。小さな私が見よう見まねで分からないなりに中国語をリピートすると、顔をくしゃくしゃにしながら喜び、ギョッと抱きしめてくれました。それ以降は、中国語の学校に連れて行ってもらえるようになり、祖父の頑張る姿

③⑥ 親の背中を
見て育つ



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

をずっとそばで見っていました。



二つめは、動物園のエピソード。小学校に入学した兄が初めての遠足で朝から大はしゃぎ。「動物園に行つてスケッチをする」と絵の具セットを準備しながらうれしそうに顔をやる兄がうらやましくなりました。そこでこっそりついていこうと作戦を練るも、所詮は4歳児、あっさり母親に見つかり失敗…。

「僕も動物園に行きたい」と大号泣の私を慰めてくれたのは祖父でした。「よし、動物園に行こう!」。クレヨンとスケッチブックを持って祖父と動物園へ。うれしくてたまらない感情と、その時に書いた

トラの絵は今も覚えているすてきな思い出です。祖父の即決、即行動に幼いながらも驚きました。

「やると決めたら、即行動し、トコトンまでやる」。この祖父の姿を見ていたからこそ、ためらいなく大学を休学し、吉本新喜劇に挑戦したり、何度も挫折しそうになりましたが、小学校教員をしながら夜間の大学院に4年間も通つたりができたと考えています。今の職で五つ目の仕事となりますが、節目節目で迷わず転職の決断ができたことも祖父の即決・即行動の姿が影響しています。



話は変わって、私のランドセル

は黄色でした。といつても、学校指定のランドセルが黄色という訳ではありません。ランドセル購入時は、42年前だったので、ほとんどが黒色と赤色でした。しかし、それらには目もくれず、迷わずその店に一つしか置いていなかった黄色を選びました。

理由は、2歳上だった兄のランドセルが黄色だったから。たったそれだけの理由です。入学後にみんなと違うことに気づきましたが、兄の影響で何の違和感も持ちませんでした。

小さな子どもは身近な人間に影響を受けます。努力と即決・即行動を体現していた祖父のような大きなエピソードだけでなく、黄色いランドセルのようなちょっとしたことでも、その価値観に染まってしまう可能性があります。「全ての行動が子ども達に影響を及ぼす」。その意識が子育てでは大切です。

祖父の即決・即行動の姿、影響